

犯罪被害者週間全国大会2007(11/25 全電通ホール)に参加して

参加報告

札幌市 前田敏章



犯罪被害者週間(11月25日～12月1日)の初日に開催された全国大会。5回目を数えますが、今回は、全国18の被害者団体が連携する「犯罪被害者団体ネットワーク」(愛称、ハート

バンド)が単独主催となって初めての大会でした。

全体の参加は320人ですが、北海道からは計10人の会員(内山、荻野、豊岡、内藤、前田、山下、白倉夫妻、高石夫妻)が参加しました。

プレイベントの「0(ゼロ)からの風」上映会に続き、本大会は、被害者の体験とメッセージとして、鹿児島(殺人)青森・千葉(交通犯罪)の被害遺族が訴え、共に歩む人々からのメッセージとして、ジャーナリスト、精神科医、弁護士が支援について語り、そして内閣府より、基本計画についての講演という構成で進行。献花は、ハートバンドをイメージしたものでした。閉会後は、茶話会が企画され、関係者の交流がより深められました。(なお、前日の24日は、浅草のホテルを会場に、被害者団体の交流会が行われています)



私はこれで5回連続の参加となりましたが、今回は北海道の会に実行委員長の役が回ってきて、緊張の2日間でした。もちろん、その大変さより、北海道の多くの仲間とともに、全国の被害者や支援関係の方と、出会い・再会・交流ができたことの充実感の方が大きく、今後の活動に生かしたいと思っています。

参加報告

旭川市 山下歌代子

初めて参加させて頂きました。1日目の交流会分科会は、カウンセラーの木村先生の「心のケアについて」に参加し、これまで遺族として辛い思いをしてきた話をする事で、専門的なご指導がいただけるかと思っておりましたが、皆さんの問題を挙げたところで時間が来てしまい、回答が得られずに終了してしまっただけが少し残念でした。そこでは、交通犯罪だけではなく様々な心の問題で苦しんでいる方がいたのですが、本当に胸が張り裂ける思いで拝聴しました。

懇親会では、青森の方々と交流が出来、会のテーマである心の繋がりを感じながら、とてもリラックスして有意義な時間を過ごさせて頂きました。

翌日の25日は、「0(ゼロ)からの風」を拝見しましたが、(田中好子役の)恵子さんの強い思いと懸命な活動が実を結んだ結果だと大変感動し、実話と聞いた時は本当に驚きました。

沢山の方の色々なお話が聞けて大変よかったです。来年は、ぜひ主人と参加できたらと思います。



参加報告

札幌市 荻野京子

いろいろな所に、手作りの極細かい配慮がなされている。前田さん以外、顔見知りの方がいなくて、内山さんの顔が見えたので、安心する。

初日は小さなグループに分かれて自己紹介。何も話せず名前だけの人、苦しみを訴える人、夫を亡くした人、子供を亡くした人、妻を亡くした人、様々な人生を語る。私は怪我をした人の苦しみ、交通事故ゼロを願って処分者講習で話をしていることを話す。時間が足りなくて、皆の胸の内を開けるまでにならなかった。分科会に移る。私は「つながりカフェ」で音楽を聴く分科会にした。木下徹くん(19歳)のギターで、優しいメロディーを聞き癒される。「時には母のない子のように」をリクエストする。隣の鈴木共子さんも「私も同じく聞きたかった」という。「上を向いて歩こう」を全員で歌って終了した。懇親会は隣に弁護士が座り、いろいろな話を聞くことができた。弁護士の二次被害を調査したことがあると言う。頼もしい人の隣に座れてラッキーである。

翌日は不案内な地下鉄を乗り継いで、内山さんと会場に着いた。到着したら安心して一度に疲れが出てしまい休憩する。映画「0(ゼロ)からの風」は6月に北海道で観られるので、少し失礼してしまった。

午後からの被害者の体験談は、妻が妻の実の弟に殺された人、同じ学校の教諭に息子を交通事故で殺された人、17歳の息子を交通事故で亡くした人の報告があった。どの体験談も惨いという言葉以外見当たらない事件の報告でした。

茶話会で発言する機会があり、大会に出席でき幸せであること、しかし、ショックで引きこもっている人が、まだまだ大勢いると思うのでケアができたら良いと呼びかけた。

札幌にも怪我で17年間苦しんでいる人がいる。税務会計の資格が取れる目前に事故に遭い、人生がめっちゃめっちゃになった。事故の真相、警察の調書の信憑性、加害者の事故状況の嘘、脅し、加害者が近所だったことから、その父親からまでも脅され、母親からも嘘をつかれた。母子家庭の弱い立場の人間に対して、理不尽な脅しを受けた。裁判での不満、最初に受診した病院の対応(頭が割れそうに痛く、吐き気、腰痛があるのに入院処置もない)等々。自分の体に現れた症状(赤信号を横断、階段から転落、記憶障害)に比べ低

い後遺症認定に対し、事実が正しく通らない社会に対して今も闘い続けている。

現在の自動車保険では、将来を不安の無いように暮らせる補償はされない。そのために長く精神的な苦しみが続く。こうした3次被害に苦しむ人が多い。

全国大会に出席して気持ちを新たにしたのは、苦しんでいる人がいたなら、せめて訪ねて行って話を聞くことなら私にも出来ると、無理しない範囲で取り組みたいと思っている。被害者が手を取り合ってこそ、被害者にとって優しい世の中に邁進できるのではないだろうか。

参加報告 江別市 高石 弘・洋子

私達夫婦は、今回初めて「飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める遺族・関係者全国連絡協議会」として参加してきました。

「犯罪被害者・・・」という言葉に重苦しさを感じ、緊張していましたが、心配することはなく、交流会はとても楽しかったのです。久しぶりに会えた仲間もいましたし、お互いに名前だけは知っていた方と「お会いできてよかったです」と挨拶して話しているうちに「初めての気がしない」と言う思いになりました。

分科会は、主人は歌のグループに参加し、とても楽しかった様です。私は興味があったヨガにして正解でした。静かな部屋で心地良い眠りを誘う音楽と優しくゆっくりと話す先生の声に精神を統一させ、硬い体に泣きそうになりながらも、心が洗われて行くようでした。ラストに暗くなった部屋で仰向けになり、体の力を全部ぬきます。体が床に沈んで行く様な深い眠りに誘われて行きます。今の私に必要なのはこんな時間だったのかもしれない。ヨガのDVDを買って家で続けよう!と思うほど、良かったです。

夜の懇親会も楽しく過ごして、賑やかな仲間達と散歩(=2次会)へと出かけました。私は北海道の仲間と共に一つになっている喜びを感じていました。ある方に「北海道の方達は皆元気ね。とても仲がいいのね。」と言われました。嬉しかったです。

2日目の午前中は、映画を鑑賞。午後からの大会では、被害者の体験談が切なく残りました。

ここに出席された方々は交通事故関係だけではありません。恐ろしい殺人事件で家族を失った方もおられました。それぞれに、悲しい思いを背負って生きていくことに、「自分だけが辛いんじゃないんだ」と、心が熱くなる2日間でした。実行委員の方々に感謝です。是非次回も参加したいと思いました。

同じ様に被害に合われた方の中には、人と話しが出来なくなったり、外部と壁を作ってしまう閉じこもってしまう人もいます。きっと現実をしっかりと見てしまっているのでしょう。私達の様にこうして外に出て笑ってふざけて話せるのってどうしてかな～って考えます。きっともう現実なんか見れなくなるほど壊れてしまっているのかもしれない。だから、沢山の仲間との出会いを大事にしたいと思います。今は外に出られない方もこの次の交流会に参加できるといいですね。

2007年はとても慌しく過ぎた気がします。道路交通法の一部は改正となりました。しかし、まだまだこのままではダメなのです。被害者が救われていません。福岡の幼児3人が亡くなった大きな事件がきっかけで、厳罰化へと進んだのに、先日の報道では、危険運転致死傷罪の適用が危ぶまれるという。やはり、「逃げ得」なのです。私達が訴え続けている「逃げ得のない新しい法律」が必要です。福岡の事件が7年ほどの軽い判決で終わっては絶対にいけないと思います。1月8日の判決を福岡へ行き見届けて来ます。1月26、27日は名古屋で我々連絡協議会の署名活動をします。

これからも頑張ります。皆さんもそれぞれ、裁判など抱えて大変な思いで過ごしていることでしょう。そんな方々の心が少しでも癒されることを願っております。

参加報告 南幌町 白倉 博幸・裕美子

今回は「交通事故調書の早期開示を求める会」として参加させていただきましたが、交通犯罪以外の遺族・被害者本人など色々な方のお話を聞くことが出来たことは貴重でした。その中で交通事故捜査の実態や調書開示の必要性や捜査機関から受ける二次被害について少しですが話をすることが出来ました。

しかし何か納得できないと感じたこともあります。なぜ「犯罪被害者」の集いでありながら私たちが「犯罪被害者」ではなく交通「事故」被害者と言われるのかと違和感を覚えました。事故と呼ぶべき事案は確かに存在しますが、事故ではなく「業務上過失致死傷罪」「危険運転致死傷罪」という犯罪でありながらも「事故」と呼ぶことを、交通犯罪被害者である私達から変えていくべきではないかと強く感じました。「事故処理」「犯罪捜査」という言葉からも感じ取れるように、交通事故の軽視の根源ではないか。今こそ皆が「交通事故」ではなく「交通犯罪」の被害者だと声を上げ変えていく時期に来ているように感じました。

一番は犯罪の無い世の中ですが、犯罪が起こりえる以上、被害者の権利充実の必要性を強く感じています。今回大会に参加でき貴重な体験をさせて頂きました。今後も様々な形で活動していければと思っています。



大会後の茶話会で発言する北海道からの参加者
他の4人の方は航空機の関係で先に出発されました

不当な刑事裁判終結。真実解明、知る権利確立へ新たなたたかい

南幌町 白倉 博幸・裕美子

たくさんの方々の力を頂きながら、真実を求め4年間頑張ってきましたが、その願いは叶わず禁固3年執行猶予5年の刑が確定しました。

トラック走行速度82.7km以上、美紗が殺された場所はトラックの走行車線とは全く無関係な場所と認定しながら「飲酒・薬物使用等の悪質運転とは異なる」と不当極まりない判決を下した矢村宏裁判長に対し、不信感と強い憤りで未だ怒りが収まりません。更には被告側から損害賠償請求裁判を起される始末。美紗の血痕で汚れたのだからと道路清掃費、更にはトラックが折損させた電柱修理費等を支払えというのです。

検察にも多くの鑑定証拠等を隠され、真実が捻じ曲げられたまま平然と進行する日本の裁判。なぜ真実を追求するべく捜査、裁判で『被害者に有利になる証拠』を被害者の味方であるべき検察が隠すのか。杜撰な交通事故の初動捜査を否定すれば裁判に勝てないと警察捜査の追従を行う事が検察庁の仕事であるなら、捜査権限を持たず裁判で警察捜査資料を基に闘うことを仕事とすればいい。被害者が何よりも望む「真実」よりも「勝ち負け」にこだわるが故にたくさんの方々の捜査資料を「不提出」とし闇に葬り、犯罪者を野放しにしている司法をこのままにはしてあげません。

私たちは現在「裁判不提出記録」の全面開示の請求を行い、2つの鑑定書を入手しました。一つは「横断中に右からはねられた」との警察見解と矛盾する『自転車の左側に付着したトラック塗料の鑑定書』。もう一つは私共の「トラックが操作不能に陥り反対車線に侵入したのではないか」との疑問に対し、検察が空港滑走路において行った『トラックの走行実験鑑定書』です。鑑定書には『トラックが急制動を掛けタイヤロックした状態でブレーキを踏み続けた場合、トラックは右に曲がって行く』と実験結果で明らかとなっていたのです。この鑑定書は「被告が自らハンドル操作をして右に行った」という供述と反するので隠したのでしょう。このように捜査機関の面子を保つため、杜撰な捜査を取り繕うための結論ありき捜査の実態、捜査機関による証拠隠滅の現実が明らかになりました。被害者の知る権利の保障なくして、被害者救済など有り得えません。

今後、犯罪被害者等基本法18条にある被害者の刑事裁判参加が認められても、いつ、どのような形で被害者等に調書開示が行われるのかも決まっています。早期の調書開示は捜査機関に対する監視にもなりますし、捜査機関による証拠隠しの根絶にも繋がっていく重要な事です。辛くても被害者が声を張

り上げ、被害者が望む「被害者支援」とは何なのか国に対し伝えていかなければいけないと思っています。私たちのような被害を受ける方が今後出ないためにも訴え続けなければ二次被害は繰り返されます。裁判員制度成功を目的とした現法律も変えなければ密室裁判が横行し、被害者は置き去りのままです。

刑事裁判は終わりましたが、私共のやるべき事はまだまだあると思っています。進行中の民事裁判での真実解明、犯罪被害者の知る権利の確立、早期の調書開示の実現などです。美紗と一緒に生きていく為に頑張っていこうと思っています。

最後に「美紗は悪くなかった」この事だけは覚えていてください。今まで沢山の温かい御支援をいただき心より感謝申し上げます。

(関連記事：15,19,20,21,22の各号)

「旧公団はロードキル対策を怠った管理責任を」公正判決求め、署名約1万筆を提出

室蘭市 高橋 雅志・利子

前号で報告した控訴のとりくみですが、札幌高裁に対し、「高速道路でのロードキル対策を怠り、高橋真理子さん死亡事故の原因となった、旧道路公団の管理責任を明確にした公正判決を求める」署名に取り組みました。1月10日に2回目の提出予定ですが、総計9481筆(12月27日現在)に達しました。

署名活動を行うきっかけとなりましたのは、久しぶりに偶然に会った顔見知りの方の次の言葉でした。

「新聞を読んだが道路公団に責任がないとはおかしい、この問題は最後まで追求するべき。署名を集めて提出してはどうか」。地裁の判決とその理由は全く納得できるものではなく、何か出来る事はないのかと考えていた私には、何よりの励ましの言葉でした。

理解し協力して下さる方はいるのかしら、との一抹の迷いはありましたが、始めてみると全国各地から沢山の方が手を差し伸べてくれ、街頭署名に協力を申し出てくれた方もおりました。

雪が舞う中、室蘭で行った街頭署名でも、多くの方が「頑張ってる」「大変だね」「新聞を読みました」などと声をかけてくれました。なかには「動物が好きなの」という方もいました。チラシを読んだ後でわざわざ戻って署名してくれた方もおり、有り難く心の中で手を合わせながら、胸が一杯になりました。

短い期間でしたが、この署名活動を通じて、多くの方に「ロードキル」という言葉と共に、高速道路で何が起きているのか知っていただけたのではないかと思います。ご協力本当に有難うございました。

控訴審は12月5日に第1回が行われ、1月18日結審の予定です。裁判官の何ものにもとられない良識をもって、正しいご判断をしていただきたいと思います。(関連記事：9,10,11,14,20,21,24の各号)

「いのちのパネル展」2007年を振り返る

実行委員長 小野 茂

交通による被害は、直接の一次被害、その後の捜査や裁判・周りの不理解などによる二次被害、そして何年も続く三次被害（PTSDなど）と、精神的被害は完治することなく続きます。

被害を受けた者が「自分たちと同じ被害を出さないで」という願いをパネルにして、2003年の6名から始まった「いのちのパネル」展も、2007年は、参加者21名で、道内23か所、延べ98日間の展示と大きく成長してきました。（5年間では71か所）

本年度の特徴として、地方会員による開催（函館・江差） 大学での多数開催（北大・教育大・国際大・医療大） 企業での場所の提供（東急あいの里店） 会員以外からの協力があったことなどが挙げられますが、拡がりを感じ取れます。

交通規則を守らずに起きた事件は、事故ではなく「犯罪である」と訴え、ドライバーや学生が、交通のあり方を考えるきっかけとなることを望んでいます。

事故は報道などで知っているようですが、事故後の悲惨さは、なかなか知らされることなく、パネルの訴えを目にし、運転について改めて考えられる方が多くあります。これから免許を取る高校生からは「かっこうよさやスピードへの憧れがあったが、間違っていた」と。また子を持つ母親からは「すべての命が

軽く扱われることのないように」などの願いが、そして多くの市民の方から「展示を各地で続けて欲しい」との感想が寄せられ、この活動を継続する意義を感じます。

今後さらに広く道内各地で実施できるように検討していきたいと思えます。ご協力をお願いします。



犯罪被害者週間国民のつどい北海道大会
（11月29日「かでの2・7」）

書籍紹介

『犯罪被害者白書』平成19年版
2007年11月 内閣府発行 1575円

本白書は、犯罪被害者等基本法に基づき、政府が講じた犯罪被害者等の施策についての報告したもので、昨年に続き2回目の発行となります。基礎資料とともに、ここ2年の基本計画に沿って講じた施策をまとめています。ある意味、私たちがとりくんできた被害者運動の成果と課題の記録です。内閣府から送付されたものが事務局にあります。ご活用下さい。

パネル展感想

大切な命なのに・・・残念です。笑顔の写真に励まされ、自分もしっかり運転しようと思います

（30歳代、女性）

北区民センター 8/20～24

パネルを見ながら涙が込み上げてくるのを抑える事が出来ませんでした。車を運転する者として、本当に気を付けて毎日、運転しなければと考えさせられました。また、子供を持つ親として、悲しみを乗り越え、このようなパネル展をして下さっている一人一人の方々に心から感謝いたします。

（40歳代、女性）

東急ストアあいの里店 9/8・9

いつも交通事故は怖いなと思いつつながら、運転中はうっかりスピードを出しすぎたり、危ない運転をしている私です。いのちのパネル展を通りがかりで見て、何となく足を止めました。全部を見ると泣いてしまいそうで一部だけ見ました。自分

にも子供が出来て尚更感じますが、家族の命が一瞬で奪われてしまったら...と考えると苦しいです。時々はこのパネル展のように、交通事故の恐ろしさに気づかされるべきだと思えます。みんな、みんな大切な命なのに...残念です。笑顔の写真に励まされて、自分もしっかり運転しようと思えます。

（30歳代、女性）

交通事故の悲劇が切々と伝わります。死亡事故例でも加害者としての刑罰はとてとても軽いものなのです。本当に通り魔殺人という言葉がひびきます。加害者が再び就職を続けられるという事実には驚きます。加害者の適性試験、人格試験など徹底して行い、不適格者には運転させないという制度が必要と思えます。

清田区役所 10/29～11/2

まだまだ法律が甘いと思えます。子供のままの大人が多すぎて、無理な、技術も無い人達が起こす事故が多すぎます。トラック・バスのドライバーが、過密すぎる仕事状況のなか死ぬ気で働いている人がいるのも現実です。免許はもっともっと厳しく取らせるべきです。

（40歳代、女性）

車を運転する事の責任を強く感じました。慣れにならず、頑張って安全運転に努めたいと思えます。きっと、いのちのパネル展で見た事はほんの一部の事だと思えました。これからも活動を通して大勢の方に、命の重みを伝えて下さい。頑張ってください。（20歳代、男性）

～編集を終えて～

北海道の仲間(会員)が10人そろって11月24、25日の犯罪被害者週間全国大会に参加しました。大会のサブテーマ「いのち・希望・未来」には「いのちを大切に作る心をつなぎ、社会全体が希望ある未来へ向かうために、団体どうし、そして多くの市民がつながり合いましょう」という願いが込められています。大会は、所期の目的を達成し、参加者の胸に次回も是非参加したいという余韻を残して終わることが出来ました。振り返ると、2007年は、この生命への共感を求める「つながり」が網の目のように拡がりつつあるを感じさせられる1年でした。

「死者数120万人、負傷者数5000万人」。WHO(世界保健機関)がまとめた2002年1年間の交通事故の犠牲者数です。国連はこうした現状に警告を発し、2005年10月26日の総会で、毎年11月の第3日曜日を「WORLD DAY OF REMEMBRANCE FOR ROAD TRAFFIC VICTIMS」(世界交通被害者追悼の日)とし、「加盟国と国際社会が交通被害者やその家族を適切に認識するための日とすることを要請する」ことを決議しました。

政府の公報もなく知らされない中で、共同提唱のWHOが作成した「指針」を和訳し、日本での「犠牲者の日」連絡会(準)を呼びかけられたのは、京都在住の今井博之さんです。今井さんは小児科のお医者さんですが、10歳の息子さんを交通犯罪で亡くしており、以来、著書や論文で被害ゼロの社会を訴えられています。「クルマ社会と子どもたち」岩波ブックレット、など) 北海道の会でもこの呼びかけに応え、パネル展実施を検討。札幌市市民まちづくり局の協力を得、プレ企画の展示を11月12、13日、大通り地下街オーロラタウンで行いました。(後掲写真)

「TAV交通死被害者の会」(事務局大阪市)や「交通事故被害者遺族の声を届ける会」(事務局川崎市)などは、このワールドディに「交通死ゼロへの『風』を全国的な社会運動に」という意味を込め、「風」を受ける黄色の「風車」を事件現場にという運動を展開しました。また、「交通事故調書の開示を求める会」(事務局東京)は、その11月18日、東京で記念シンポジウムを行いました。

このワールドディを市民の立場で担い、大きな運動にしたいと取り組みを始めた方が、千葉商科大学の小栗幸夫教授です。教授が昨年11月5日、急ぎよ立ち上げた掲示板サイトの名称は「世界道路交通犠牲者の日・つながるプラザ」でした。このサイトで多くの個人と団体がつながり、ワールドディはさらに大きく広がりました。

交通被害ゼロのために小栗教授が研究開発し、実

用化を目指しているのは、自動車が必要以上の速度を出さないように「(道路)環境にふさわしい最高速度を選択し、それを外部に表示する車」(速度抑制車)で、名付けて「ソフトカー」 小栗教授と試作の「ソフトカー」に、11月18日のシンポの会場で「お会い」できました。新たな「つながり」が、「未来」への大きな「希望」を与えてくれたのです。2008年も「希望」を胸に着実に歩みたいものです。(前)



「世界交通被害者追悼の日」プレ展示(札幌地下街)

会の目録

2007.8.20～2008.1.10.

会合など

- 8/20 会報24号発送
- 9/12 10/10 世話人会・例会
- 10/16 「フォーラム・交通事故2007」開催
- 11/14 世話人会・例会
- 11/25 「犯罪被害者週間全国大会2007」(東京)
- 12/12 世話人会・例会

体験講話

- 9/13・10/10 江別高校(高石) 9/26上士幌高校(小野) 10/23 留萌中部3町村交通安全女性大会(山下) 10/25 後志交通安全セミナー
- 10/31 札幌市交通安全指導員研修会 11/14 札幌稲北高校 11/20札幌平岡高校 11/20小樽工業高校定時制 12/13 札幌厚別高校(前田)

- 免許停止処分者講習** 8/30 小野 9/14 太田
10/26 荻野 11/29 内山 12/27 二宮

パネル展示

- 8/8～18 函館市水道局 8/20～24 北区民センター 9/8・9 東急ストアあいの里店
- 9/19～22 江差町文化会館 9/25～28 中央区民センター 9/26 上士幌高校 10/22～26 江差町役場 10/29～11/2 清田区役所
- 11/12・13 札幌地下街オーロラスクエア 11/29 かでの2・7 12/10～14 渡島支庁

《 会員の皆さんへ 》 例会予定 2月13日 3月12日 4月9日 13時～ 事務所
2008年の定期総会・交流会は 5月10日(土) 13:30～ 「かでの2・7」です。